

教科・領域等〔 社会科 〕

12 「対話的な学び」を視点とした授業改善の実践



こんな実践

授業の中で、生徒の意識に沿った、生徒の中から生まれた「学習問題」や「学習課題」を据えることで、生徒と教材の間に、また、生徒と生徒の間に対話の必然性が生まれた実践です。

実践学校 N中学校

実践学年 3学年

実施時期 1月下旬

単元名 「地球社会と私たち」

学習指導要領との関連 公民的分野 D 私たちと国際社会の諸課題

(1) 世界平和と人類の福祉の増大 (2) よりよい社会を目指して ア

【単元の流れ】

○公民最終単元「地球社会と私たち」の実践です。「平和とは何か」をクラスで話し合った後、「世界の平和の実現のために、日本が果たすべき役割はなんだろう」を、単元を貫く学習問題に据え、公民分野の最終章「地球社会とわたしたち」の単元を学習してきました。「領土・領海問題」「環境問題」「経済格差」「文化や宗教の違い」など、1時間1時間の学習内容について、毎時間の振り返りの時間に単元を貫く学習問題と関わらせながら考察してきました。そして、単元の終わりにもう一度、それまでの学びを結集しながら「世界の平和のために日本が果たすべき役割は何だろう」について話し合う時間を設けました。

【単元展開】

時間	○学習活動	・指導, 支援
1 導入	①「平和」とは何か, 話し合おう。 ②単元を貫く学習問題「世界の平和のために日本が果たすべき役割は何だろう」について考え, 話し合おう。	・3年間の社会科の学びを生かして, 未来の「平和」の実現について考えていくことを伝える。 ・単元を貫く学習問題を据え, 単元最初の自分の考えをまとめ, 話し合うようにする。
2 ～ 9 展開	③以下の学習内容と「平和」のつながりを考えよう。 ・国際社会における国家(領土・領海・領空) ・地域主義の動き	・以降教科書2ページずつ学習を進めていき, 1時間の終わりに「今日の学習内容で『平和』と関係するものはあったか」「それに対して日本が果たすべき役割は」と振り返りをし,

	・新興国の台頭と経済格差	意見交換をするようにする。
2 ～ 9 展開	・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・貧困問題 ・新しい戦争 ・文化の多様性	
10 活用	④単元を貫く学習問題について、これまでの学びを生かしてもう一度話し合おう。	・単元の最後にもう1度「単元を貫く学習問題」について話し合う時間を設ける。 ・本クラスでは、この時間の後にもう1時間「順位付け」をする授業を行った。
11 まとめ	⑤日本の実際の取組を学ぼう。 ・国際連合の仕組みと役割 ・日本の外交の現状と課題 ・世界とつながる日本 ・世界平和のために	・教科書でまだ扱っていないページについて学び、日本の実際の取組について学ぶ。 ・単元の振り返りを書き、発表し合うようにする。

【本時の生徒の学びの様子と教師の迷い】

学習問題「平和の実現のために、日本ができることはなんだろう」

○生徒の意見

経済格差をなくすよう
途上国に支援をする

世界唯一の被爆国として核廃絶を訴える

食料の廃棄を少なくして食糧不足をなくしていく

相手国への思いやりの気持ちを大切にしてい

助け合いの心が大切だと思

○Aさんの振り返り

「平和ってなんなのか、何からやっていっていいのかわからなくなってしまった

Aさんの振り返りに、教師は考え込んでしまった…。

これまでの単元での学びを生かして、生徒はたくさんの意見を出し合い、多面的な見方ができたのはよかったかもしれない。しかし、Aさんはたくさんの友の意見にふれることで、「平和ってなんなのか」「何から手をつけてよいのか」と、迷ってしまった。

生徒の課題意識から、もう1時間授業をしよう！

Aさんの「何から手をつけていいのか…」という振り返りを受け、学習問題を「世界の平和の実現のために、以下の問題のどれから日本は取り組んでいったらよいのだろうか」とし、生徒の意見を順位付けする授業にしました。

それぞれの生徒が考えている「日本ができること」の具体策の裏側にある理由や思いをより明確にお互いがつかめるよう、学習課題を「自分が、そして友達が『どれから』を考える上で大切にしていることは何だろう」としました。

【追加した1時間の生徒の学びの様子】

学習問題：「世界の平和の実現のために、
以下の問題のどれから日本は取り組んでいったらよいのだろうか」

○Aさんの授業はじめの考え

- ・最初に取り組むべき事：戦争，新しい戦争を防ぐ 理由：戦争をなくすことが平和の第一歩だと思うから
- ・2番目に取り組むべき事：貧困問題 理由：不平等があつて平和とは言えないと思うから
- ・3番目に取り組むべき事：経済格差 理由：経済格差は貧困問題にもつながると思うから

○生徒の意見

B君：貧困問題から。経済格差がなくなれば平和につながるから。

C君：経済格差から。貧困，難民がなくなれば，戦争がなくなるから。

Dさん：文化や宗教の違いを理解する。理解しないと戦争につながることもある。

Eさん：貧困問題。できるだけはやくできることを。でないと命が失われてしまうから。

Fさん：国連の力で。日本の力だけでは足りない。世界の協力が必要。などの意見

生徒の意見のつながりや関連に着目しながら，教師は，学習課題「自分が、そして友達が『どれから』を考える上で大切にしていることはなんだろう」を据え，まず自分の考えを記すように促しました。

○Aさんの考え
どれも時間はかかるだろうけど、
その中でも時間がかからないもの
はどれか。また、命に関する問題
から



G君：「現実的に今できること」だと思う。まずできることは経済格差をなくしていく。フェアトレードなどで。それがやがては戦争をなくすことにつながる。

Aさん：時間がかからないもの。きまりをつくって戦争をなくすことが1番、と考えています。友達が出しているエネルギーの問題は、きまりで解決することは難しそう。

H君：戦争の原因を大切に考えている。1位は宗教の違い。先にこれを解決しないと戦争はなくならないと思うから。

Iさん：私は「身近にできること」で考えています。貧困問題から解決すべき。自分たちが食料を無駄にしないようにして。

などの意見



○Aさんの振り返り
1位は「文化や宗教の違いを理解する」
理由：「今まで『文化や宗教の違いがあったっていいじゃん』って思ってあまり重要視してこなかったけれど、H君が「文化や宗教の違いが戦争につながる」と言っていて、平和への第一歩が戦争をなくすことだと思うけど、そのためには戦争の原因をなくさなければいけないと思ったから」

【Aさんの学びの考察】

たくさんの友の意見を聞く中で、Aさんの中に、「平和とはなんなのか」「何から取り組んでいったらいいのか」と、より深い問いが生まれました。始め、Aさんは、命を直接的に奪うということから、「戦争」をなくすことを第一に考えていました。しかし、友の意見に触れながら、学習課題への自分の考えを書く際には「時間がかからないものはどれか」と書いています。それは、Eさんの「できるだけはやくできること。でないと命が失われてしまうから」という意見に触れたからだと考えます。さらに学習課題「大切に考えていること」について、「時間がかからないもの。きまりをつ

くって戦争をなくすことが一番」と発言しましたが、授業最後の振り返りには「文化や宗教の違いを理解する」と考えを変えています。この考えの変容は、Aさんが発言した直後に聞いた「戦争の原因を考えている」というH君の意見に触れて起きたことであると考えます。本時の授業最初に、「平和の実現のために、戦争をまずなくしたい」と考えたAさん。そのAさんは、授業の中でたくさんの友と対話し、授業終わりにもう一度自分と対話することで、「時間も大切だけれど、戦争の根本の原因となるものを解決したい」と考えを深めていったと考えます。



ここがポイント！

- ・教師が生徒の中に生まれている問いをとらえ、その問いに合わせた学習問題や学習課題を設定し直すことで、生徒は友や自分自身との対話を深めていくと考えられます。

まとめ

- ・教師が生徒の意識に沿って学習問題や学習課題を据え、学習を展開する中で、Aさんの中の問いは更新されていきました。その問いを追究するために、Aさんは友と対話し、「平和の実現のために日本、自分ができること」についてより多面的、多角的に考えていきました。生徒の中に問いが据わり、追究が進んでいる時、生徒の中には自然に対話の必然性が生まれ、その対話の中で生徒の考察は深まっていくと考えます。